

平成 29 年度 第1回鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)推進委員会 議事要旨

日時：平成 29 年 7 月 7 日（金）15：00～17：00

場所：鶴見区役所 6 階 9・10 号会議室

推進委員：小山委員長・八森副委員長

大野委員・押山委員・河西委員・烏田委員・河合委員・斉藤委員・神保委員
高橋委員・田中(志)委員・田中(博)委員・富樫委員・西澤委員・藤田委員
増子委員

事務局：区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長
高齢・障害支援課長、こども家庭支援課長、生活支援課長、総務部長
地域力推進担当課長、地域力推進担当係長、事業企画担当係長
区社会福祉協議会事務局長、区社会福祉協議会事務局次長
区福祉保健課、区社会福祉協議会

1 開会

- ・写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

2 鶴見区長挨拶

3 新任委員紹介

高橋委員、西澤委員より自己紹介

4 事務局職員紹介

人事異動により変更になった職員の紹介

5 議事

(1) 第3期計画の概要について

- ・福祉保健課事業企画担当係長より説明。

平成 29 年度年間計画について

- ・福祉保健課事業企画担当係長より説明。意見等なく承認

(2) 話し合い～様々な見守りについて～

(進行役)

今回は、3期計画の2本目の柱である「必要な人に支援が届く仕組みづくり」の中にもある「見守り」というキーワードをテーマに議論していきたい。委員の方々から意見を伺う前に、区内で行われている見守り活動の事例について2つ紹介してもらい、参考にしながら話し合いを進めていきたい。

① 豊岡地区 ～学童の見守り活動～

- ・福祉保健課事業企画担当職員より説明

豊岡地区では、連合全体で学童の見守り活動を行っている。発端は3期計画の地区別計画の策定の際に住民からの「認知症の方や学童への声掛けや見守りをしていきたい」という意見があり、まずは諏訪坂地区等で既に実施していた学童の見守り活動を連合全体で行っていくことになった。当時、川崎で発生した少年事件から、子どもた

ちを見守る大人の責任について住民から声があがったことが一因であった。

3期計画に先行する形で平成28年1月からスタートし、月に1回1時間程度、小学校の下校時間にあわせて実施している。共通の黄緑色のベストを着用し、目立つようにし、車通りの多い大通りや五叉路などの危険な箇所を中心に見守っており、小学生に声掛けを行うことで住民同士のつながり強化にもつながっている。

豊岡地区の人は、まず始めてみて、走りながら考えて、みんなで話し合い、より取り組み内容を良いものへ高めていこうという意識がある。豊岡あいねっと情報交換会で意見を重ねるうちに、危険なことがあった際にリアルタイムで情報共有するために防災無線を活用しようというアイデアや子どもだけでなく高齢者に対しても注意が必要であるという認識、マップを活用した危険個所の確認、危機管理学習会の実施等を通じてより良い取り組みへと発展していった。

② 生麦第二地区 ～サロンからつながる見守りの輪～

・東寺尾地域ケアプラザ職員より説明

地域包括支援センターとして、自治会や老人会に加入していない住民のセーフティネットワークの構築が必要であると考えており、身近な地域にサロンや居場所を作りたいという話を地域住民としている際に、地域住民からは多世代交流の場でもあって欲しいという意見があった。両者の思いが一致していたことから、地域課題を共有し合意形成を行い、現在までに4つのサロンを立ち上げている。

自治会長を中心とした運営組織のメンバーを選定し、自治会館や児童館で開催しており、区の補助金や区社協の善意銀行等も活用し、運営している。麻雀、折り紙、囲碁・将棋、体操、手芸といった内容で開催し、折り紙や手芸は得意な参加者が中心となって取り組んでいる。他にも防犯講座や認知症予防講座、近隣の保育園との交流会なども実施している。

サロンの効果として、地域とつながっていない高齢者をつなぐための手段としての活用や転居してきた人でも気軽に参加できる場、世代間交流の場も担っている。また、サロンの立ち上げに至る地域課題について運営協議会を通じて共有することで、生麦第二地区全体で見守る地域づくりが必要であるという認識が浸透していった結果、第3期計画にも見守りに関する目標も立てた。

身近な場所にサロンや居場所があることで地域とつながりお互いが見守り・見守られ、孤独な状況にさせない地域になっていく。今後も地域と協働し、サロン活動を通して孤立を防ぎ緩やかに見守りできるまちづくりに取り組んでいきたい。

(進行役)

2つの事例を発表してもらったが、それぞれ子どもと高齢者の見守りできっかけは違うが、地域全体へ見守りへ拡大していった事例であった。豊岡地区の事例については「走りながら考えていく」のが重要なキーワードであった。生麦第二地区の事例については、自治会・町内会に入っていない人をサロンという場を活用して見守るという視野の広がった活動に展開しており、転居してきた人も参加しやすいというヒントもあった。

子供から高齢者までの様々な状態にある住民全体の見守りについて、地域で暮らしている中で感じていることや困っていること等、各委員からご意見をいただきたい。

(委員)

あいねっとの活動について、最初のうちは何をやらいいかわからない人が多かったが、今は見守りについても民生委員や主任児童委員の方を中心にみんなで一緒になって取り組んでいる。

近所に独居老人が多く住んでいる市営住宅があり、その住民で、ここ2年間、顔を見るくらいの関係の方がいたが、今朝初めて声を掛けられた。民生委員が最近訪問してくれないという内容だったが、話を聞いてみると2年ほど前に既に亡くなっていた民生委員のことであった。その人は奥さんと一緒に住んでいるようで、少し安心したが、民生委員の間で引継ぎがうまくいっていなかったのかもしれない。とりあえず、何かあれば私に言ってくださいと伝えたが、今回初めて話すまで2年くらいかかっており、腹を割って話すには3～4年のはかかると感じている。どう対応するのが一番良いのかは分からないが、挨拶で声掛けをするように心掛けている。あいねっとの活動はそういった声掛けから始まるのではないかと思う。

(委員)

先ほどの事例発表で学童の見守りがあったが、自分の地域でもセキュリティネットワークという名称で下校時の見守りを長いことやっている。自分も参加しており、交差点等で見守っているが、特に4月は新しい1年生が入ってくるので、交通ルールを守るという視点で活動している。今のような夏の時期だとプールバッグを持っているので、「今日のプールはどうだった？」と話しかけたり、気分が沈んでいると感じる子どもには「何かあったの？」と声をかけながら見守りをやっている。

それから、ボランティアグループとして潮田地域ケアプラザで高齢者向けの配食活動を週に2回しており、訪問した際には声掛けを行っている。自分たちでは問題を解決することはできないが、何か普段の様子と違っておかしいと感じたらケアプラザへ報告し、見に行ってもらおうようにしている。

(委員)

獅子ヶ谷で乳幼児一時預かり施設を運営しており、主に子育て世代の見守りをやっている。施設を利用している母親は、割と年齢の高い人やコミュニケーションが苦手な人が多いと感じている。また、虐待まではいかななくても育児疲れやスマホ依存になっている人や子どもが自閉症であると診断された人が悩みを相談にくるケースもある。様々な相談を受けて、自分たちにできることは何か、できないことは何か、できないのであればどこの関係機関へつなげたらいいのか、ということをお繰り返している中で、積極的ではない当事者たちを探してどのようにアプローチしていけばよいのかという点に課題を感じている。

先日、保育コンシェルジュから依頼があった際に、やりとりの中で一時預かり保育とは何かという話になった。役所等の行政関係者についても文書等で施設の存在を把握はしているのかもしれないが、本質のところを理解せずに単に子どもを預かっている施設と思っている人もいる。子育て支援に関わっている行政機関の方に対して、子育て中の母親や兄弟、その家庭全体を見守っているという実情を知ってもらえる機会があったら嬉しい。

それから、妊娠中や赤ちゃんがまだ小さいうちに一時預かり保育のことを知ってもらい、困ったときにはすぐに相談できるように、前もって対応ができればよい。

(委員)

先ほど、セキュリティネットワークという下校時の見守りについて話があったが、自分も同じ町会であり、この取り組みは15～16年前から始めている。平安小学校は集団登校・下校をしており、登校時は保護者が見守り、下校時は地域の人が見守りというすみ分けをしている。通学路もしっかり決められており、不審者等への対応もできていると思う。

また、子どもから高齢者までという意味では、フリーフラットルームという場所を

設けており、みんなが自由に立ち寄ってお茶を飲んだりできるようになっているが、先日、ホームレスが利用しているという相談があった。色々な方に利用していただくのは結構だが、子どもたちに差し障りのある人は困るので、「清潔な服装の方に限る」と注意書きを行った。

それから、高齢者の活動については様々な取り組みをしており、色々な方が参加してくれるが、自主的な活動であるため、地域全体の数パーセントの人しか対応できていない面もある。地域全体を見守るためには、多くの方が見守り員となって津々浦々まで見守る活動が広がっていかなくてはいけない。自主的な活動でその参加者を見守るということは非常に良いことではあるが、それではカバーできないところが多くあり、その部分をどう対応してかが課題であり、検討しているところでもある。

(委員)

先ほどの事例発表であった学童の見守りについては、私も地域住民の一人として参加している。現在この取り組みは豊岡地区全体で取り組んでいるが、あいねっとの活動によって各自治会・町内会の垣根がなくなってきたからこそ、みんなで取り組むことができた。以前であれば、各町会で勝手にやればよいという風潮だったため、地区全体で取り組むことは難しかったと思う。これは個人的にはあいねっとの効果であると感じている。

それから、老人クラブとして訪問見守り活動について取り組んでいるが、なかなか活動内容を理解してもらうことが難しいと感じている。高齢者になると区の災害時要援護者支援事業と老人クラブの友愛活動の違いを頭で整理するのは難しく、混同している人が多いため、区が説明に行くと友愛クラブの活動との違いについて質問されることもあるかもしれない。

また、訪問する際の基礎情報を整理しなければいけないという話は10年前からあがっているが、徹底することができていない現状があった。昨年、全117の老人クラブにおいて友愛活動グループを通じて、友愛クラブ受入カードというアンケートをお願いして、回収した情報を精査して活用しようとしたが、回収率は30~70%程度とバラバラである。回収率が高いところは実質100%のところもあった。

カードの内容は、訪問希望や訪問頻度等を記載してもらい、ゆるやかな見守りを希望する場合は、ポストや夜の照明等のどこを見て欲しいか詳細も記載してもらう。また、いざという時のために緊急連絡先も記載してもらっている。現在、情報を精査しているが、できるだけ回収率をあげていきたい。

(委員)

私たち介護者として一番問題に感じていることは徘徊者についてですが、現在「わになるネット」ができたので、徘徊者についての情報把握は進んでいると感じている。

一方で、ある程度高齢になると認知症の徘徊者だけでなく、健康な人でもいつ倒れてしまうか分からないということが話題になっている。テレビ等でご存知の方も多いと思うが「みまーも」というシステムがあり、私の地域でも「みまーも末吉」が発足した。矢向、寺尾、潮田等でもホルダーを作成し、情報を管理していると思うが、予算の関係でホルダーではなくカードを作成した。カードに登録した人のナンバーが記載されおり、それを携帯するというシステムである。

個人的にはこの取り組みがもっと広まって行って、区全体で推進していき、見守りネットワークが構築できるとよいと感じている。

(委員)

冒頭の事務局からの説明において障害者数が鶴見区は市内第1位で11,000人程度、

身体障害者数は市内第1位、知的障害者数は市内第2位、精神障害者数は第5位という情報があったが、障害者手帳所持者だけでなく、手帳を所持していない障害者の数が増えてきていると感じている。そういった方の相談が増えており、実際には当事者の家族が支援しているケースが大半である。今、直面していることは、その主たる支援をしている家族の高齢化に伴って、当事者がどこの関係機関にもつながっていない家族をどのように見守っていくのかということが非常に大きな課題である。

鶴見区は障害児数が市内第1位という現状がある中で学校に通うという見守りは大変ありがたいことであるが、放課後を含めて考えると「はまっ子」や「学童」には通うことができず、保護者や施設等のサービス提供事業者が支えている実情がある。障害者が地域で生活するということを考えたときに、サービスの中で生きていくことは大切な支え方ではあるが、サービス提供事業者と自宅の往復だけでなく、地域の中で支えながら生きていくということを改めて考える必要がある。

(委員)

民生委員については、75歳以上一人暮らし高齢者の定期訪問や災害時要援護者の見守り、住民からの相談を行政や包括へつなげて解決していくこと等が役割である。

自分が住んでいる市場地区については、皆さんがお話ししてくれたような事業は全てやっているが、民生委員の立場から言わせてもらおうと事業が多く、負担が多い。なので、地域の隣近所で見守りを行っていくのが一番良いと感じている。民生委員だけでなく、訪問員、保健活動推進員、老人クラブ等、みんなで地域を見守っていくことを進めており、行政や町会長も連合会長も情報の共有化を行って、いざというときに備えることが必要である。

(委員)

先ほど話があったように潮田地域ケアプラザでは、「ランチさるびあ」と「つるの恩返し」と連携し、配食を通じて見守りを行っている。先日、一人暮らし高齢者へお弁当届けに訪問した際に不在だったという連絡を受けて、確認したところサービス事業所も探していたことがあった。ケアプラザが中心となってボランティア団体と介護保険事業所との間に入って安否確認を行っている。

また、地域においても各町会の各団体へ職員が出向いて見守り活動を推進していくように働きかけを行っている。

(委員)

先ほどの事例発表であったように生麦第二地区ではサロンが次々と立ち上がっており、各会長からは盛況であると聞いている。また、その地域の方だけでなく、誰でも参加できるようになっているので、私も各サロンに顔を出しているが、様々な講座等を実施しており、良い活動だと感じている。

また、保健活動推進員としては、ひざひざわっくん体操に取り組んでおり、毎月第3月曜日と火曜日に2会場で実施している。参加している方も非常に熱心に取り組んでおり、膝の痛みが良くなったという話も聞いているので、良い取り組みであると感じている。

それから、認知症の啓発については、生二ひまわり会として人形劇を通じて啓発活動を行っており、これからも継続していきたい。

(委員)

様々な障害を抱えた方がいるが、車椅子を使用している人は分かりやすい反面、精神障害や知的障害は一目では分かりにくい。なので、各グループホームや施設では、

イベントを実施する際に地域の人にお手伝い等で来てもらい、障害があることを理解してもらえるように努めている。これからの季節も夏祭り等イベントが多いので地域の人に手伝ってもらいながら、理解を深めていきたいと考えている。

(委員)

先ほど話があったように民生委員は、関係機関とのつなぎ役ということを通じて普段活動している。

また、自分が住んでいる下末吉地区では、高齢化率は鶴見区平均が20.5%に対して約26%あり、高齢者が多い地域である。先ほど話が出ていた訪問員の制度も進んできており、以前よりきめ細やかな見守りができていると感じている。その中で、民生委員や訪問員と見守られる側が話をしたり、お茶を飲みに行ったりというケースが出てきており、良い取り組みであると感じている。

現在、下末吉地区にはサロンが2箇所あり、もっと増やしていきたいと感じているが、場所の確保がネックになっている。これからサロンが増えて全体のコミュニケーションが増えていけば、家に閉じこもった人も外へ出るような空気になってくると思うので、全体を見ながら活動をしていきたい。

(委員)

わっくん広場は2009年に豊岡町にオープン、尻手1丁目にサテライト拠点も今年オープンして多くの親子にご利用いただいている。1日の利用者平均は豊岡町で100人程度、尻手では50人程度利用されており、これから夏場にかけて利用者が増えていくことが予想される。尻手のサテライトについては、ほとんど尻手、市場、元宮エリアの方が利用されており、地域に根付いた施設になっていくと思う。サテライトの開所にあたっては、地域の皆様の暖かいお声をいただき、開所することができ、大変感謝している。

見守りについては、施設に来ていただいた方にはスタッフがとにかく声を掛けるようにしている。先ほどの豊岡の学童の見守りの事例にもあったが、声を掛けないと意味がなく、黙っているとそのまま帰ってしまう。天候の話でも服装の話でも何でもいいのでとにかく声を掛けることをモットーにしている。

また、先ほど別の委員の話にもあったが、今の若い方はコミュニケーションが苦手な方が非常に多く、こちらから「暑いですね」と声を掛けるとびっくりされることがある。そういったコミュニケーションが苦手な母親が増加しており、スマホ時代という影響もあると思うが、日常会話でコミュニケーションをとる難しさを感じている。こちらから繰り返し話しかけていき、ニコニコと笑顔でいると段々と打ち解けてくるのも感じているので、声掛けからの見守りを続けていきたいと思う。

それから、来ていただいた方の相談対応について、利用者支援窓口ができ、専任のスタッフが配置されたことで、相談目的で来所する人が増えている。自分が何を悩んでいるかも分からない人もいるため、大きな問題になる前に小さい段階で見つけるためにはこちらから声を掛ける必要がある。子どもを遊ばせることができるし、ミニ講座に参加することで学べる場でもあるので、色々な人に一度は来てほしいと感じている。

孤独な子育てと言われて久しいが、マンションの一室で孤独を感じていても、そこは地域の中である。会社勤めしているときは地域に目が向かなかった人が、子どもが産まれたことで変わり、地域の一員になれたということ伝えられたらと思っている。今は見守ってもらう側でも、いつか見守る側へ変わっていつてもらえるようになるにはどうしたらいいかを考えている。今は子育てで手一杯でも、色々な人に助けてもらいながら、鶴見区が温かい場所であることを感じてもらって住み続けてもらい、いず

れ、自分がしてもらったことをお返しするという気持ちになってもらえるように日々活動をしている。

(委員)

精神障害については、隠すというか、隠さざるをえないというか、障害者自身が表にあまり出ていかないということもあり、周囲から協力を得られないことが多い。どうしても精神障害の人は怖いのではないかと考えている人が多くいるため、自治会等の地域へ隠してしまうことが多いと感じる。周囲に精神障害を明らかにすることで、協力を得られる形にしていきたいと思っているが、私自身、自治会活動には参加していないのが現状である。地域の中に自分から入っていかなくてはいけないという思いがある反面、あいねっと推進委員会への参加も後ろめたい気持ちがないわけではない。だが、それでは進歩がないので、皆様にご理解ご協力いただきながら、精神障害者が表に出てきづらい実情を少しでも理解して欲しいと思っている。

当事者や家族も地域の中へ入っていききたいという気持ちがあってもなかなか踏み出せないのではないかと。むしろ、声掛けられるのを期待している面もあると思うので、周囲から積極的に声をかけていただけると嬉しい。

(委員)

矢向地域ケアプラザの取組を2つほど紹介したい。

1つは、先ほど話題にあがっていた「みまーも」に類似するもので、「とっちーホルダー」を作成している。これは、緊急時の連絡のためというよりは、元気なうちからケアプラザとつながりをもってもらおうという趣旨で、65歳以上の一人暮らし高齢者で緊急時連絡先がある方に対してホルダーを持ってもらう仕組みづくりを進めてきた。現在、650人ほど登録者がいるが課題もある。情報の更新が難しく、引越した人や亡くなった人の情報を追いかけることができていないという現状がある。ただ、年間2～3人の方は、具合が悪くなったとき等にホルダーが活用されて、ケアプラザへ連絡があり、緊急連絡先へつなげるということがあるので役に立っていると感じている。

2つ目として、毎年1回実施している民生委員とケアマネジャーの連絡会があるが、今年の3月に「見守り」をテーマに行った。東京ガス、朝日新聞、ヤクルト、郵便局等の各事業者の方に出席してもらい、民生委員やケアマネジャーの見守りの他にどんな見守りができるのかという、まさに地域包括ケアシステムについて集まって意見交換をした。その結果、各事業者も高齢者や一人暮らしの方への見守りを心掛けてくれていることが分かった。ただ、各事業者で見守り活動をしているが、他の事業者がどのように活動しているか把握できていない現状が浮き彫りになったため、ケアプラザを中心として横の連携を強化していきたいと考えている。参加した民生委員からは、自分たち以外にも地域みんなで見守っているということが認識できてよかったという意見があった。

(進行役)

各委員、非常にたくさんのご意見ありがとうございました。幅広い活動からそれぞれの活動へつながっていく様子を聞かせていただいたが、課題としていくつかあげられた点があった。

- ①支える側の高齢化問題。
- ②障害者手帳はないが、障害があって困っている人やこれから困る人がいる。
- ③民生委員の見守りの引継ぎについて検討していく必要がある。

- ④障害者が地域で生きるということについて、もう少し深めていく必要がある。
- ⑤活動の担い手や参加者を増やすにはどうしたらよいか。

このような課題に対して、成功の秘訣も話の中にあげられていた。

- ①定期的に繰り返して継続していくこと。
- ②大きな問題になる前に、早くに前もって関わることを心掛ける。
- ③情報の共有について踏み込んでいき、様々な人をつなげて連携を深めること。
- ④地域で生きるという視点をもつこと。

様々な活動の意見があったが、あいねっとの活動を通じて色々な壁が取り払われているという話もあったので、第3期計画2年目として具体的に踏み込んでいくためのヒントを得ることができたと思う。活発に議論していただいたので、この内容をまとめて共有していきたい。

- (3) 平成28年度推進フォーラムの振り返りについて
 - ・ 鶴見区社会福祉協議会事務局次長より説明

- (4) 平成29年度推進フォーラムについて
 - ・ 鶴見区社会福祉協議会事務局次長より説明。

【テーマ・キーワードについて】

- ・ 昨年の事例発表では3事例あったが、それぞれ異なる種別で良かった。今年もそれぞれの種別、それぞれの立場の方が意見を言える仕組みがあると良い
- ・ 詳細については、企画委員を中心に決めることで承認。

【推進フォーラム概要について】

- ・ 事務局の提示した案で承認。詳細については企画委員会で調整して進める。

【企画委員の選出について】

- ・ 鶴見区社会福祉協議会事務局長より説明。
- ・ 昨年度から引き続いて、保健活動推進員の田中氏を選出
- ・ 3期計画の柱の「健やかに暮らせる地域づくり」の「場」「機会」というキーワードや、当事者の立場、支援者の立場ということを考慮して、鶴見区介護者の会おりづる会の代表の川合委員を選出
- ・ 以上2名を企画委員とすることで決定

- (5) その他

- ・ つるみ・地域元気づくり事業について地域力推進担当係長より説明。
- ・ 市民精神保健福祉フォーラムについて田中(博)委員より説明。

6 閉会